小学校　資料名「ぶんきち」（出典：「大切なこころ」を見つめ直して）

◆**学校名**　松原市立布忍小学校，松原市立松原小学校，富田林市立喜志小学校，
大阪狭山市立西小学校

◆**主題名**　かけがえのない命　　**道徳の内容**　Ｄ－生命の尊さ

◆**ねらい**　ぶんきちが危険な状態になってしまい、第三者の言葉から生命について考える主人公を通して、生命の尊さを感じとり生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。

◎**中心的な発問**

エリは、ぐっと唇をかみしめて涙がわいてきたとき、どのようなことを考えていたでしょう。

◆**本時の展開**

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点及び評価★
導入	◎「いのち」について思っていることを振り返る。	「いのち」と聞いて、どんなことを思い浮かべましたか。	○本日の学習のねらいを明確にする。
展開	◎資料「ぶんきち」を読んで、主人公の気持ちを考え、自分の考えを話し合う。 ◎資料の続きを読む。 ◎本時の学習を振り返り道徳的価値を深める。	ぶんきちを手の平にのせておろおろしていたとき、エリは、どのような気持ちだったでしょう。 ・自分のせいでぶんきちがこんなふうになってしまった…ごめんね。 ・どうしよう、大丈夫かな。 ・ぶんきちにもしものことがあったらどうしよう。 体中が急に冷たくなっていくような気がしたときのエリの気持ちはどうだったでしょう。 ・ぶんきちが治らなかったら大変だ。 ・とりかえしのつかないことをしてしまった。 ぶんきちのいない鳥かごを見つめていたエリは、どのような気持ちだったでしょう。 ・ぶんきちが死んでしまったら、どうしよう。 ・私がちゃんとカーテンを閉めていたら、こんなことにならずにすんだのに。 エリは、ぐっと唇をかみしめて涙がわいてきたとき、どのようなことを考えていたでしょう。 ・ぶんきちは、この世にたった一匹だけ。 ・ぶんきちの代わりなんていない。 ・ぶんきちはお金で買えない。 今日の学習で学んだことや考えたことを書きましょう。 ・これから生き物を大切にしていこう。 ・どんなに小さい生き物でも、かけがえのない命を持っている。 ・命は一つしかないから、何も代えられない。 ・命は大切だから、自分の命も含め命をもっているもの全てを大切にしていこう。 ・改めて命の大切だということを思った。 ・死んだら終わりだし、命はお金で買ったり作ったりできないから、命はかけがえのないものだ。	○資料は、教師が範読する。 ○エリのおかれている状況を把握する。 ○おばさんの言葉を聞き、改めて命を大切にしようとするエリの気持ちを考えさせたい。 ○エリの立場に立ってエリの気持ちを考え、ワークシートに書き込むようにする。 ○机間指導し、多様な意見を引き出せるようにする。 ○気持ちが書けない児童には、寄り添いながら助言する。 ○理想論だけでなく、どうして命が大切なのかを考えることで、かけがえのない命について考える。 ☆自分の考えを書いて、伝えることができたか。 ○続きを読むことで余韻を持って次につなげるようにする。 ○感想を発表し合い、道徳的価値への気づきや自覚をさらに深める。 ☆学んだことや感じたことなど、自分の思いを書くことができたか。 ☆生命あるものを大切にしようとする心情をもつことができたか。

終末	◎谷川俊太郎の詩「しんでくれた」を読む		○余韻をもって終わるようにする。

◆研究のまとめ

〇授業実践について、チームとしてのまとめ

☆　ワークシートを用いると個々の道徳的価値観がどの程度到達しているのか把握することができた。

☆　４５分の授業の中で、授業の始めと終わりに同じ発問をすることで、道徳的価値の変容が見られた。しかし授業の中で同じ発問をする際は、二回とも授業の中で記述するのではなく、事前に記入した上で授業を行うとスムーズに学習が進められる。事前の記述と授業の中での記述とで評価を見取ることができるだろう。

☆　ねらいとする価値に迫るためには、教師側からの誘導ではなく子どもたちにゆさぶりを投げかけ、価値に迫れるようにしたい。また、全ての道徳的価値について上記のような評価をするのは難しいと考えられるので、今回のような形で評価できる内容か、検討する必要がある。

〇道徳の評価についての提言

□道徳の導入時の記述（発問）と終末の記述（発問）から道徳的価値の変容で評価する。

・「ぶんきち」の導入で「いのち」についてどう思うかの問いに子どもたちは、
　大切なもの　　大事なもの　　身体の中心にあるもの　　一つしかないもの　など、「いのちは大切だ」と認識している。

・授業の終末での同じ記述（発問）では、
　いのちは一番大切なものでその命は、自分で守っていかないといけない。
　自分の身体を大切にしないといけない。
　人の命や動物の命を大切にしよう。
　友だちに死ねと言わないようにしよう。
　危ないことはやめよう。
　家族といる時間を大切にしよう。　など、導入の記述に比べて、自分の命だけでなく家族の命や友達の命、また生き物の命も大切にしようという価値の変容が見られた。

□ワークシート用いて評価する。
　道徳の時間に学んだことや思ったこと、考えたことなど記入し、子どもたちが自らの内面の変化のプロセスを振り返させる。ぶんきちは家族の一員で世界に一匹しかいない文鳥であると捉えている子がたくさんいた。ワークシートにより、子どもたちがねらいとする価値にどの程度到達しているかを把握することができた。

【各校での実践の記録】

◆実施学年　（３年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

○中心発問までの場面の発言や内容から

　ぶんきちを手の平にのせておろおろするエリの気持ち、体中が急に冷たくなっていくような気がしたエリの気持ち、ぶんきちのいない鳥かごを見つめていたエリの気持ちを順に発問することで、エリがぶんきちを心配する思いや自分自身のせいだと後悔し、責める気持ち、さらには、ぶんきちに元気になってほしい、きっと元気になると信じる思いなど、ぶんきちを思うさまざまなエリの気持ちを考えることができた。

○中心発問の場面の発言や内容から

　「私の気持ちも分からないのにそんなことを言わないでほしい。」「ぶんきちは治るかもしれないのに治らないことが決まっているみたいに言わないで。」とおばさんを批判する発言が多かった。また、おばさんの言葉に不安になり、「そんな弱いぶんきちじゃない！」「ぶんきちが治るまで待つ」とぶんきちの命が助かることを信じる思いがさらに強くなったという発言もあった。

　そこで、前者では、「私の気持ちとは？」「おばさんにどうして怒っているの？」「おばさんの言うとおり、また新しい文鳥を買ってもらうのは、どうして違うの？」後者では、「どうしてそこまで信じたいの？」とその都度切り返し、ねらいに近づけ、考えを深められるようにした。

○振り返りの場面の記述から

　身近な友だちを例に出して「名前が同じでも、ここにいる○○は、○○しかいない。代わりはいない。」という発言や、「エリとぶんきちのつながりは強い。だから、そんなぶんきちの代わりなどいない。新しい文鳥はぶんきちの代わりにはならない。」という発言など命はかけがえのないものであり、代わりになる命などないと考えることができた。また、ぶんきちを心配するエリの気持ちに寄り添い、命を失うことの悲しみまで考えを深めることのできた児童もいた。そして、そんな命だからこそ、大切にしていかなければならない、大切にしていこうという思いを交流することができた。

○成果（○）と課題（●）

○ワークシートを用いることで、それぞれの意見がはっきりとされるので、子どもたちがねらいとする価値観にどの程度到達しているのかを把握することができた。また、そのことで、授業者自身が授業を振り返ったとき、深めるポイントが明確になった。

●資料を分けたことで、ぶんきちが助かったのか、助からなかったのかに議論がそれてしまうことがあった。

・発問に対する子どもの反応

○「いのち」と聞いて、どんなことを思い浮かべましたか。

大切なもの　あったかい　心　一つしかない　何があっても守らないといけないもの
いとこのことを思いました　ひいばあば　生きていてもいつかは死んでなくなってしまうもの
もどってきてほしいもの　生きる　世界一大切なもの　心臓　ちいちゃんのかげおくり

○ぶんきちを手の平にのせておろおろしていたとき、エリは、どのような気持ちだったでしょう。

・自分のせいだ。どうしよう。やってしまった。
・悲しい。かわいそうなことをしてしまった。ぼくが悪い。
・心配
・自分にできることはないかな。

○体中が急に冷たくなっていくような気がしたときのエリの気持ちはどうだったでしょう。

・治らないかもしれない。
・死んでしまうかもしれない…心配。ぞっとする。こわい
・死なないでほしい。

○ぶんきちのいない鳥かごを見つめていたエリは、どのような気持ちだったでしょう。

・なおってほしい。もう一度この鳥かごに戻ってきてほしい。
・元気になったらまた、一緒に遊びたい。
・元気かな？早く会いたいよ。
・ぶんきちごめんね。

◎エリは、ぐっと唇をかみしめて涙がわいてきたとき、どのようなことを考えていたでしょう。

・やっぱり死んでしまうのかな。いや、まだ分からない！
・そんなこと言わないで。治るかもしれないのに！
・ぶんきちを忘れたくない。ぶんきちじゃないといやだ。今までずっと育ててきた。
・ぶんきちは、ぶんきちだけ。ぶんきちは、きっと生きてる！信じている！
・大切な家族。

○学習で学んだことや考えたこと

・命は大切。もっと大切にしないといけない。
・命を大事にする。命は大事にしなあかん。自分の命を守ろうと思いました。
・世界で誰かは誰かだけ。
・同じ名前でも自分のペットは、世界に１ぴきしかいないということを知った。
・家族が大けがをしていたら悲しいから、もっと大切にしようと思った。
・命がどれだけ大切なのか、一つの命が消えることで、どれだけの人が心配するのかが分かった。
・ぶんきちとエリとのつながりはすごくあるんだなと思いました。

実践校名（松原市立布忍小学校）

◆実施学年　（４年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

○　中心発問の場面の発言の様子や記述から

・命に限りがあり、死んでほしくない

・ぶんきちは世界に一ぴきであり、代わりはいない

・ぶんきちは家族の一員であり、関わっている

○　授業の最初と最後のふり返りの記述を比べて

子どもたちは、「命は大切」ということを知っている。教材を通して「ぶんきち」との関係性に触れ、かけがえのない命に関する記述（死の重さ、共に生きることの尊さ、一つしかない命の大切さなど）ができた。

○　ねらいに迫る（評価に至る）までの支援

場面ごとに段階を踏んで、エリの気持ちを押さえることで、中心発問でねらいに迫りやすいように支援を行った。

はじめの発問でエリがぶんきちを大切にしていることを確認した。次の発問で、ぶんきちの命が危ないかもしれないと医者に言われ、ぶんきちがいなくなるとエリが悲しくなる気持ちをおさえた。そしてぶんきちのいない鳥かごの見たエリの気持ちを考えることで、ぶんきちがいなくなることが現実に感じられ、とても悲しい気持ちになることを押さえた。このことによって、ぶんきちの存在は、エリにとって「悲しみ」を感じられるほどの存在であり、大切であることが、子どもたちが理解できるように授業の組み立てを行った。

さらに教材文においては「ぶんきちは世界に一ぴきや」「ぶんきちは家族の一員や」と直接ぶんきちとの関係や代わりがいないことに触れている。つまり中心発問までに、命の大切さ、尊さについてエリの気持ちを検討することで、触れることができている。

このように中心発問に至るまでに、命の大切さ、尊さについて考えられるよう、発問を行うことで、中心発問でねらいとする価値について子どもたちが検討できるように支援を行った。

○成果と課題

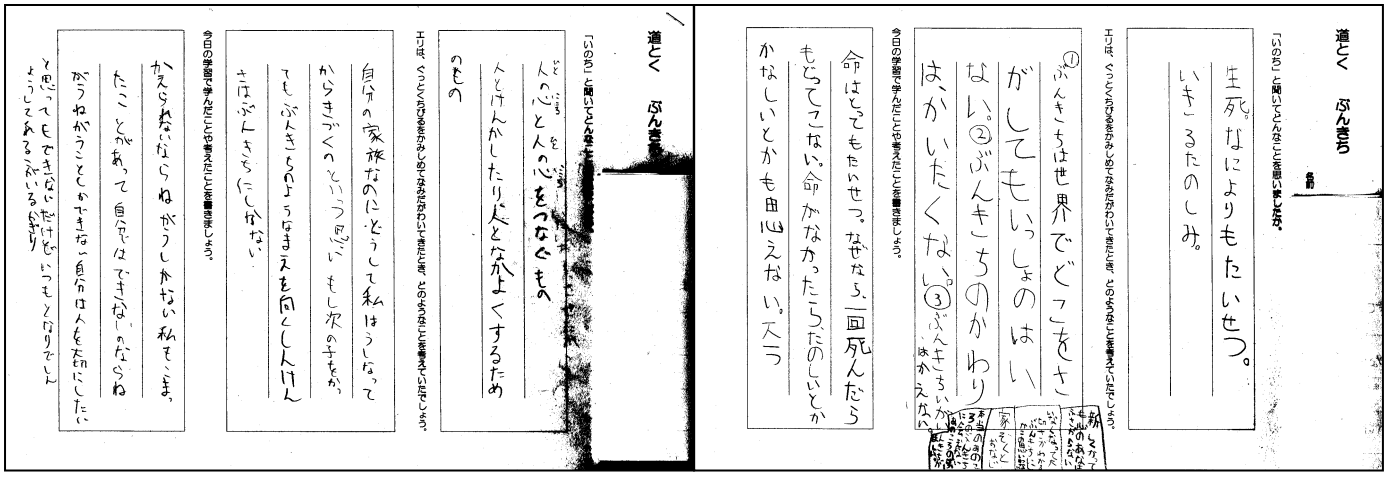
※　ぶんきちとエリとの関係についてエリの気持ちを検討することで、中心発問では様々な立場で命の大切さに関する意見が出た。

※　意見の中では、教材のなかで直接触れられていない、命の無常さ（１分かからない出来事で同じ命がなくなる、命がなくなってほしくないけれど、かなえられないならば願うしかないなど）についてねらいとする価値からも、命について考察している児童もいた。

※　生命あるものを大切に「しよう」とする心情を育てる点については、この授業案では教材の持っている価値について十分に触れることができなかった。教材文の最後にある「エリは、お父さんの顔をじっと見て、それから大きくうなずきました。」を検討することで、限りある命をなんとしてでも大切にしようというエリの心情に児童本人が寄り添うことができたはずである。その点では、教材を十分に生かしきれなかったといえよう。

※　今回の発問では、場面ごとにエリの気持ちを検討することで、中心発問では命の尊さ、大切さについて様々な意見が出された。場面ごとに押さえた発問であるがゆえに、ねらいに迫ることができた。一方、児童が自分の力で教材文を読みとり、価値を学び取るという点においては、印象が薄い。発問を大きく広げて行うことで、自分自身で教材にある価値を学ぶようにしていきたい。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）



実践校名（富田林市立喜志小学校）

◆実施学年　（４年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

導入時に、児童へ「いのち」について問うと、
・命は大切なもの。
・命はひとつしかないので一番大切なもの。
・お金よりも大切なもの。
・いつかはなくなるものなど
命について誰もが思っている発表がほとんどだった。

終末時のワークシートの感想では、
・どんな生き物も命があり、大切にしなければならない。
・命はとても大切だから友だちにふざけて「しね」など言わない。
・家族とふれあう時間を大切にしたい。
・生き物も家族の一員なので大切にしたい。
・ぶんきちは世界に一匹なので、おばさんの発言はおかしいなどの感想が多くあった。

この授業を通して児童は、生き物の唯一性や命の大切さについてより深く考えてくれたように思う。

○成果と課題

終末に私が１８年間飼っていた犬のことを児童に話した。犬が亡くなる前のことや犬と別れることの辛さなど聞いて、生命の尊さや唯一性をさらに感じ取ってくれたように思う。（ワークシートから）

授業の中では、発表する子どもの発言内容から概ね評価せざるを得ないので、ワークシートや道徳ノートをうまく活用して多くの子どもの心情を捉えていくことが今後大切だと考える。

実践校名（松原市立松原小学校）

◆実施学年　（３年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

★授業の導入時の記述とふり返りの記述から道徳的価値の変容で評価をする。

★子どもの発言からの評価をする。

○導入では、「いのち」について思い浮かべることをワークシートに書かせた。子どもの記述からは、

・大切なもの　　・大事なもの　　・寿命　　・体の中で一番大切なもの

・一つしかないもの　　・命があるから生きている

などが挙げられた。最初の段階では、「命は大切だ」ということは、子どもは分かっている。

○中心発問の子どもの発言から

・他の文鳥は飼いたくない。　　・ぶんきちがいい。

・新しいのを飼うとぶんきちがかわいそう。

一方で・・・

・治療が失敗したら、新しく飼ってもらう。

・もし死んだら、おばさんが言ったように新しいものを飼ってもらおうかな。

・元気にならなかったら、新しい鳥を飼う。

などの意見も挙げられた。

そこで、指導者から、「死んだら寂しいから新しい鳥を飼ってもらったらいいんじゃない？」とゆさぶりをかけ、話し合いになった。すると子どもからの反応は・・・

・ぶんきちは家族だ。　　・ぶんきちは、世界に一匹だけ。　・ぶんきちがかわいそう。

などの意見が出た。導入の時より、命がより大切だという価値に深まった。

○ふり返り記述から（ワークシート）

・命は一つしかないから、大切にしよう。

・人の命も動物の命も大切だということが分かった。

・生き物も生きているからきっと「死にたくない」「長生きしたい」と思っていると思う。動物や人の命を大切にしようと思った。

・自分の命も大切にして、自分で守ろうと思った。

などの考えが出た。

○成果と課題

・一時間の中で記述から始めと終わりの子どもの道徳的価値の変容が見られた。

・発言から変容が見られた児童もいたが、全員の評価は難しい。

・資料によって始めに価値を書かせられないものもあるのではないか。

・一時間の中で書く活動が多くなる。

実践校名（大阪狭山市立西小学校）